

安産と 子宝を授ける上和田の 子安地藏さん

昭和五十五年十二月五日号

赤いよだれかけをした、にこにこ顔のお地藏さん、皆さんの近所にもきつとおられることでしょう。

このお地藏さん、地藏菩薩じざいぼさつといってお釈迦様しやくかがなくなつてから五十六億七千万年の後に、みろく菩薩様がこの世に現れるまでの間、人々の願いや苦しみを聞いて私たちを救つてくださるといふ有り難いありがた仏様ぼつさまなのです。全ての願い事を聞きとどけてくださるといふので、各地に子安地藏こやすぢざいとげぬき地藏などいろいろな名前をもつた地藏さんが祭られています。今回は子どもを授け、丈夫じちやうに育ててくださる上和田うまわだの子安地藏さんのお話です。



今から八百年ぐらい前、建久元年けんきゆうげん六月二十日のこと。この年は長雨の年でした。そのころの富士川は加島平野を勝手に流れ、洪水になると瀧井川の水と一緒にいっしょになつて和田川に流れこんできました。

上和田の東泉院とうせんいん(現在、東泉院はないが田吉浅間の付近)あたりの和田川は、この長雨で大水でした。お百姓さんは、この大水で田んぼが流されはしないかと心配し、田んぼを見

るために本國寺ほんごくじの裏の橋までやつてきました。そこでお百姓さんたちは、橋げたにかかつた木の地蔵さんを見つけたのです。この地蔵さんを東泉院の別当べつどう（一番主な坊さん）に見せると「これは川上の地蔵さんに違いない。故郷へお返ししたほうがよい」との返事でした。いろいろ調べたところ、富士川上流、甲斐かゝい（山梨県）の村の地蔵さんとわかり、その村に返してあげました。

ところが翌年よすねの洪水、それも同じ六月二十四日、所も同じ橋げたに、同じ地蔵さんが流れ着きました。驚いた人々は再び別当に相談しました。別当は「きつと地蔵さんは、この地で祭つてほしいにちがいない」とおっしゃいました。それではと甲斐の村にかけあつてみたところ「お地蔵さんは、上和田がお好き

にちがいない。そちらで祭つてくだされば幸せです」との返事がありました。そこで上和田の人々は東泉院の境内けいんに祠ほこを建てて祭りしました。それから幾日かが過ぎた晩ばん、お地蔵さんが別当の夢枕ゆめまくらに立ち「私は安産を守護まもする子安地蔵である」とお告げになりました。それで人々は、この話を聞き伝え、子安地蔵と呼ぶようになりました。

子宝が授かりました

竹田正子さんと明香ちゃん（富士見台六）私は流産しやすい体質らしく二回も流産してしまいました。子供が欲しかつたので田の友人の紹介で知つた、この子安地蔵さんにおすがりしてみました。そして子宝に恵まれ、十月三十一日、長女を無事出産しました。